

全校の皆さん、おはようございます。

今日から高校総合体育の地区大会がはじまります。先週おこなわれた卓球競技では、本校の卓球クラブが見事優勝し、県大会への出場権を獲得しました。

今、本番を控えた選手の皆さんの中には緊張した面持ちの人もいるでしょう。私たちは選手と同じ舞台で戦えませんが、せめて精一杯のエールを送りましょう。ところでスポーツに限らず、私たちはこれまでコンクール、検定試験、定期考査など、沢山の本番を経験してきました。その結果、勝った、受かった、自己ベストを更新すると、一生懸命準備してきた成果が出せたと、笑顔がはじけることでしょう。逆に、負けた、落ちたとなると、「勝つはずだったのに」「一生懸命やったのに」という思いで、悔しさと悲しさが、ごちゃ混ぜになって、涙が自然とあふれてくることでしょう。

本番に挑む誰もが、負けるとか、落ちるとは思っていないはずです。ちよつぴり自信はないけど、自分のできることを一生懸命やって、自分があるいはチームが望む結果だけを考えているはずです。しかし、思うような結果がでないと嫌でもその現実を見つめなければならぬのです。

親鸞聖人が著された『高僧和讃』の中に「本願力にあひぬれば、むなくすぐるひとぞなき」という言葉があります。これは、「私を支えてくれる様々な願いのはたらきに気づくことができたならば、自分の送る人生を無駄だと思う人はいない」という意味です。

笑顔も涙も自然に出てくるものです。それは、一生懸命やったから出るもので、もし、私がそのことに無関心であれば、笑うことも涙を流すこともないはずです。勝つてうれしい、負けて悔しいのは、自分が一生懸命「今を生きてきた」という事実を積み重ねてき証拠です。「今を生きてきた」自分には、つらかったとき励ましてくれた仲間や家族、時に厳しく指導してくれた先生など、様々な人の「願い」が私を支えてきてくれたはずです。その「願い」に気づくとき、一生懸命やったことは決して無駄にはならないのです。

そして、その「願い」に応えようと、本番を終えたあとには「勝ち」や「負け」の分別を越えた大きな喜びがあると思います。